

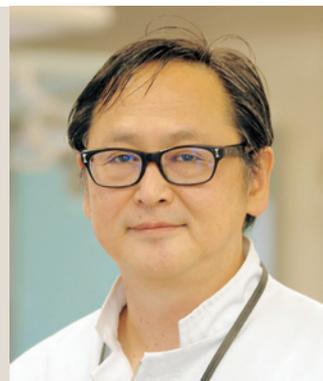


- 巻頭言—— 歯科医療センター長就任のご挨拶  
看護部長就任のご挨拶
- 特集—— 矢巾新病院 周辺施設の整備計画について
- フリーページ—— すこやかスポット薬学講座No.10  
「とろみ調製用食品の功罪  
～とろみ調製用食品を使ったお薬の服用には要注意～」
- 表紙写真：宮古市「浄土ヶ浜」

## 歯科医療センター長就任のご挨拶

佐藤 和朗

(口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 教授)



平成30年4月1日より岩手医科大学附属病院歯科医療センター長を拝命いたしました口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の佐藤和朗です。本学は昨年創立120年を迎え、歯学部におきましても既に50年の歳月を重ねる歴史ある大学です。その歴史の中で、来年9月には矢巾新病院に移転するという節目の時期に、病院の重職に就きまして、責任の重大さに改めて身が引き締まる思いです。これからの任期、地域医療の充実と大学の発展のために尽力したいと思います。

さて、我が国の医療が今後向き合わなければならない現実として、既に実感し始めている人口構成の少子高齢化に対峙しなければならないのは、歯科におきましても同様です。平成30年度の診療報酬改定の概要をみても、「地域包括ケアシステムの構築と連携の推進」と「安心・安全で納得できる質の高い医療の実現」を大きな柱に据えて改定しております。医療全体の中で、医歯薬看共通の認識の上で医療を提供することが求められており、地域包括ケアシステムの構築が急がれる中、附属病院におきましても多職種連携を基盤としたチーム医療の充実を進めていきたいと思っております。既に

連携診療が行われております周術期の患者連携におきましても、循環器疾患の周術期における細菌性心内膜炎の予防や化学療法や放射線療法によるがん治療の際の口腔粘膜炎症の予防だけに止まらず、病院移転を機に連携の一層の拡大と充実を図りたいと思っております。

また、本学附属病院は地域医療を支える基幹病院と、これからの医療を支える若い医療人を育成する教育病院としての両者の役割を担っております。少子化が進んでいる現在、18歳人口の減少に伴い地方の医療従事者の確保は大きな問題になっております。歯科に関しては、ほんの少し前に歯科医師過剰問題が大きく取り上げられておりましたが、今後は地方における歯科医療従事者が減少していく事が懸念されております。歯科疾患の構造の変化や多職種連携などのニーズに対応できるような、新しい歯科医療従事者を育成していくことにも力を入れていく所存でおります。

今後とも、地域の皆様により一層安心して受診して頂ける歯科医療センター、そして矢巾新病院の歯科を目指すため、全力を尽くす所存でおります。何卒、変わらぬご指導の程よろしくお願い申し上げます。

## 看護部長就任のご挨拶

佐藤 悦子



この度、4月1日付をもちまして、看護部長を拝命いたしました。浅学非才の身ではございますが、この重責を全うすべく誠心誠意努めさせていただきます。

三浦幸枝前看護部長は、「倫理観に基づく看護の専門性の追求」を重視し、さまざまな課題に取り組み、拡張を続ける組織の形成に尽力されました。私の使命は、前看護部長の思いを継承し、看護における質の保証に向けた組織づくり、そして、病院長とともに、平成31年に控えた矢巾新病院開院、および病院機能評価受審に付随するさまざまな業務の遂行であります。

看護部が目指す姿は、1,300人もの看護職員一人ひとりがプロフェッショナルとしての自覚をもち、自己の能力を磨き、高い技術と豊かな感性を兼ね備えること。そして、ケアの本質ともいえる相手に関心をもち、患者さんの意思を尊重し、ニーズや想いを大切にした看護の実践です。この看護の基盤となるのが看護部の理念、すなわち「やさしさと思いやりの心・倫理観をもった看護」にあります。やさしさと思いやりの心とは、意識せず、誰に対しても「笑顔」「気遣い」「心配り」のある看護を意味します。難事を未然に防ぐためにも、この理念を思い起こす機会が必要と考えます。

今年度の看護部目標は、「価値観を尊重した安心・安全な医療の提供」とし、①抑制しない看護、②患者参加の医療、③お互いを思いやる多職種連携の3点を挙げました。医療をめぐる環境の変化に伴い、当院には医療ニーズの高い患者さんの集中が見られ、医療を提供するとともに、早期の在宅復帰を目指す必要があります。患者さんにとって最善となる医療の実践には、従来型より踏み込んだ上記3点の目標が重要と考えます。特に高齢社会の今、退院後も医療的ケアや介護の必要性を鑑みて、安心・安全な医療の確保が必須となります。また、多くの職種と円滑な連携を図りながら、地域につないでいく「チーム医療」の強化が必要であり、看護職の存在価値はますます高まります。そのため、看護の質と量の両面において、看護部として戦略的な方針をもって実践してまいります。

新病院移転は夢を共有する機会であり、かつてない向上の機会となります。これから迎える体験は、私たち一人ひとりの「無償の財産」になります。この千載一遇の機会を逃すことなく、より愛される組織への歩みを進めたいと思います。

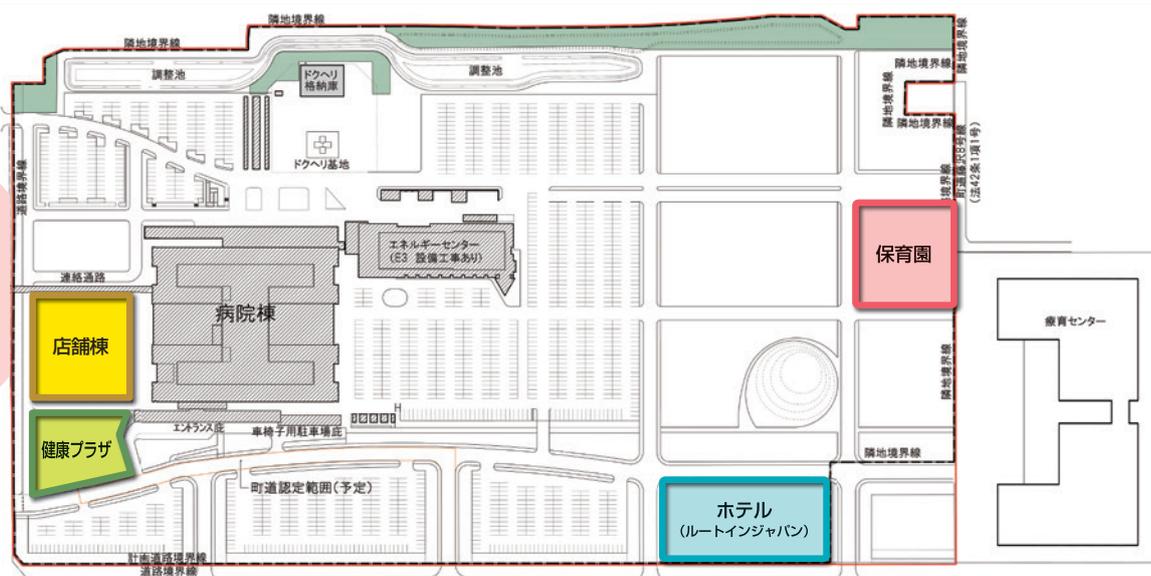
今後ともご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

# 矢巾新病院 周辺施設の整備計画について



平成31年9月の矢巾新病院開院に向けて、周辺のアメニティー施設の新築工事も着々と進んでいます。そこで今回はこれらのアメニティー施設の整備計画についてご紹介します。

## 配置図



## ■ 店舗棟



快適に新病院をご利用いただくため、コンビニ・フードコート・コーヒーショップなどが入るアメニティー施設です。

### ■ 施設概要

- 延床面積 5,369㎡、鉄骨造、地上3階建
- 1階：コンビニ、レストラン、フードコート、コーヒーショップ、アイスクリーム店、ベーカリー、銀行、クリーニング店、医療・介護用品店、理美容店、ATM
- 2階：事務局、学習スペース
- 3階：講義室、学習スペース

### ■ 運 営

学校法人岩手医科大学

## 健康プラザ



新病院に隣接し、調剤薬局、健康増進施設などを整備します。

### 施設概要

延床面積 1,680㎡、鉄骨造、地上2階建  
1階：調剤薬局、健康増進施設等  
2階：テナント施設

### 運 営

MULプロパティ株式会社

## ホテル



付き添いの方の宿泊もできるホテルです。300室を備え、459人を収容する県内最大級のホテルです。

### 施設概要

延床面積 7,513㎡、鉄骨造、地下1階、地上10階建  
客室数 300室 (459人収容)

### 運 営

ルートインジャパン株式会社

## 保育園



安心して子育てと仕事が両立できる環境づくりに向けて、大学で働く皆様が利用できる保育園です。

### 施設概要

延床面積 937.46㎡、鉄骨造(一部木造)、地上1階建

### 運 営

学校法人岩手医科大学

### 現在想定している運営概要

定 員	101名 (内訳) 0歳:18名 1歳:21名 2歳:21名 3歳:20名 4・5歳:21名
休 園 日	日曜、祝日、第2・3・5土曜、年末年始(12/30～1/3)
保育時間	平日(月～金) 7:00～18:00(延長6:00～7:00、18:00～20:30) 第1・4土曜 7:00～13:30(延長18:00まで)
夜間・休日保育	勤務者のみ利用可能(事前予約制)
一時保育	登録者のみ利用可(別途料金徴収) ※主に土・日曜日に対応(出張や研修・セミナー参加時の対応)
病児保育	定員10名(保育園利用者及び登録者のみ利用可) ・対応時間7:30～17:30 ・利用前の医療機関受診が必要 ・受入れ対象疾患等は今後検討予定

## 店舗棟・保育園の名称及び健康プラザの愛称公募について

店舗棟・保育園の名称及び健康プラザの愛称を公募します。たくさんのご応募をお待ちしております。

### 募集内容

①店舗棟名称 ②保育園名称 ③健康プラザ愛称  
※店舗棟と健康プラザは、隣接する一体的な商業施設となりますので、総称としての提案でも構いません。

### 応募対象者

岩手医科大学教職員、圭陵会員、学生

### 応募方法

- ・郵送、メール、持ち込みで受け付けます。
- ・用紙、形式は自由。
- ・名称及び名称に込めた思いなどを簡単に説明した解説文(50文字以内)を添付してください。

### 応募締切・発表

締め切り 平成30年8月31日(金) 17時必着  
発 表 平成30年9月下旬(予定)

### 応募先

岩手医科大学企画部総合移転計画事務室  
〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19番1号  
TEL 019-651-5111 (内線7025・7028)  
E-mail itenjimu@j.iwate-med.ac.jp

# 学校法人岩手医科大学 平成29年度決算

平成29年度は、消費税増税や建築資材などの高騰が附属病院移転計画を含む本学の経営に大きな影響を及ぼしている中、教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しました。

創立120周年記念事業関係では、矢巾新病院の新築工事を推進するとともに保育園新築工事への着手、看護学部の開設に伴う機器備品等の整備、さらに医療関係では各種高額機器の整備などを行いました。一方で、医療収入の増収

に努め、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図り、財政基盤の更なる強化に努めました。

当期事業活動収支決算は、事業活動収入540億8,594万円から事業活動支出509億7,502万円を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は、31億1,092万円となり、矢巾新病院関連等の基本金組入額△47億2,378万円を計上したことにより、当年度収支差額は△16億1,286万円となりました。

## 1. 事業活動収支

### (1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額540億8,594万円は、前年度比20億7,194万円(4.0%)増加、予算比では11億2,883万円(2.0%)下回りました。

①学生生徒等納付金85億3,817万円は、前年度比9,477万円(1.1%)減少しました。

主な減少要因は、学部の学生数減少と岩手看護短期大学の看護学科の学生募集停止によるものです。

②医療収入363億6,454万円は、前年度比11億4,151万円(3.2%)増加しました。

附属病院医科の医療収入は、前年度比3億5,821万円(1.3%)の増加、歯科医療センターは1億567万円(8.3%)の減少、循環器医療センターは10億1,662万円(19.5%)の増加、花巻温泉病院は7,524万円(7.7%)の減少、PET・リン酸先端医療センターは5,242万円(15.8%)の減少となりました。

③補助金合計額は、49億3,045万円の前年度比12億5,630万円(26.0%)増加しました。

教育活動収入の経常費等補助金33億4,870万円は前年度比1億6,447万円(4.7%)減少し、国庫補助金として私立大学等経常費補助金18億4,359万円、医療研究開発推進事業費補助金(いわて東北メディカル・メガバンク機構)5億607万円等、地方公共団体補助金として高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円、岩手県ドクターヘリ運航事業補助金2億4,724万円等がありました。

特別収入の施設設備補助金15億8,174万円は前年度比14億2,077万円(882.6%)増加し、地方公共団体補助金として高度救命救急医療等提供拠点整備費補助金(岩手県)11億1,534万円、災害医療体制等整備費補助金(岩手県)3億1,701万円等がありました。

### (2) 事業活動支出

事業活動支出の合計額509億7,502万円は、前年度比8億1,823万円(1.6%)増加、予算比では2億1,448万円(0.4%)下回りました。

①人件費218億7,062万円は、前年度比1億7,801万円(0.8%)増加しました。

給与、賞与、所定福利費の合計204億5,315万円は、前年度比2億6,714万円(1.3%)増加し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計13億5,855万円は、前年度比9,014万円(6.2%)減少しました。

②医療経費153億8,988万円は、前年度比5億7,879万円(3.9%)増加しました。

医薬品費は、前年度比1億7,983万円(2.2%)の減少、医療材料費は7億6,458万円(11.9%)の増加、給食材料費は596万円(2.5%)減少しました。

医療収入に対する医療経費割合は42.3%となり、前年度より0.2%増加しました。

③消耗品費8億3,287万円は、前年度比1億1,924万円(12.5%)減少しました。

④光熱水費は、重油料3億887万円、ガス料1,819万円、電気料6億5,393万円、水道料1億7,627万円、合計11億5,726万円となり前年度比1億110万円(9.6%)増加しました。

⑤修繕費は、施設修繕費1億2,621万円、機器備品修繕費2億1,803万円、合計3億4,424万円となり前年度比170万円(0.5%)減少しました。

⑥業務委託費39億3,771万円は、前年度比9,162万円(2.4%)増加しました。

病院別では、附属病院医科21億7,072万円、歯科医療センター1億2,080万円、循環器医療センター3億3,545万円、花巻温泉病院1億3,227万円、その他11億7,847万円です。

⑦減価償却額33億6,527万円は、前年度より2億6,306万円減少しました。

⑧その他の諸経費等は28億16万円となりました。主な内訳は、福利費1億9,183万円(学生福利費2,973万円、職員福利費1億6,210万円)、公租公課1億7,511万円(消費税1億2,008万円、法人税・事業税3,310万円、固定資産税・都市計画税1,936万円等)です。

⑨資産処分差額4億6,000万円は、第1号アパートの取り壊しに伴う除却及び耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

## 2. 資本収支

### (1) 資産の部

①施設関係支出123億3,133万円は、建物6,143万円、矢巾新

病院整備工事費の建設仮勘定122億4,702万円等です。

- ②設備関係支出24億4,656万円は、電子カルテシステムの更新をはじめとする教育研究用機器備品24億2,086万円等です。
- ③矢巾新病院の移転事業資金では、資産運用支出45億10万円のうち45億円を第2号基本金引当特定資産として積み立てました。また、その他の収入138億3,997万円は第2号基本金引当特定資産から取り崩した44億6,274万円を含んでいます。
- ④流動資産312億516万円のうち、貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料5億4,869万円、歯科貴金属384万円、合計5億5,253万円です。

## (2) 負債、純資産の部

- ①固定負債は110億8,038万円となり、主に退職給与引当金残高の109億6,729万円です。

②流動負債は132億9,632万円となり、主に矢巾新病院の移転事業に係る未払い金77億8,428万円です。

- ③基本金は47億2,378万円を組入れし、1,211億9,434万円となりました。
- ④当年度収支差額△16億1,286万円と前年度繰越収支差額△265億6,727万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△281億8,013万円となりました。
- ⑤純資産の部合計（基本金+繰越収支差額）は、前年度より31億1,092万円増加し、930億1,421万円となりました。
- ⑥平成29年度末現在で作成する財産目録純資産額（資産総額－負債総額）は930億1,421万円です。

### 平成29年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,538,166	人件費	21,870,619
	手数料	251,313	医療経費	15,389,880
	医療収入	36,364,536	消耗品費	832,872
	寄付金	1,162,574	光熱水費	1,157,256
	経常費等補助金	3,348,702	修繕費	344,245
	付随事業収入	1,384,070	業務委託費	3,937,710
	雑収入	997,828	減価償却額	3,365,273
			その他の諸経費等	2,800,162
	<b>教育活動収入計</b>	<b>52,047,189</b>	<b>教育活動支出計</b>	<b>49,698,017</b>
教育活動外収支	受取利息配当金	9,033		
	<b>教育活動外収入計</b>	<b>9,033</b>	<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>
特別収支	その他の特別収入	2,029,716	資産処分差額	460,001
			その他の特別支出	817,000
	<b>特別収入計</b>	<b>2,029,716</b>	<b>特別支出計</b>	<b>1,277,001</b>
	<b>事業活動収入合計</b>	<b>54,085,938</b>	<b>事業活動支出合計</b>	<b>50,975,018</b>
	<b>基本金組入額合計</b>		<b>△4,723,781</b>	
	<b>当年度収支差額</b>		<b>△1,612,861</b>	

### 平成29年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,538,166	人件費支出	22,054,242
手数料収入	251,313	諸経費支出	24,466,804
寄付金収入	1,559,366	施設関係支出	12,331,134
補助金収入	4,930,445	設備関係支出	2,446,564
付随事業収入	1,384,070	資産運用支出	4,500,100
医療収入	36,364,536	その他の支出	3,882,668
受取利息・配当金収入	9,033	資金支出調整勘定	△11,375,578
雑収入	998,099	翌年度繰越支払資金	21,272,608
前受金収入	1,449,238		
その他の収入	13,839,973		
資金収入調整勘定	△10,777,756		
前年度繰越支払資金	21,032,059		
<b>収入の部合計</b>	<b>79,578,542</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>79,578,542</b>

### 貸借対照表 (平成30年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	86,185,752	固定負債	11,080,384
有形固定資産	64,762,507	流動負債	13,296,318
特定資産	21,315,662	負債の部合計	24,376,702
その他の固定資産	107,583	<b>純資産の部</b>	
流動資産	31,205,164	基本金	121,194,345
		繰越収支差額	△28,180,131
		純資産の部合計	93,014,214
<b>資産の部合計</b>	<b>117,390,916</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>117,390,916</b>

## 高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程開講式が行われました

6月1日（金）、創立60周年記念館10階会議室において、高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程の開講式が行われました。当センターでは、今年度から副センター長に佐藤悦子看護部長、専任教員に伊藤奈央がん看護専門看護師を迎え、研修内容のさらなる充実を図っています。

研修生代表挨拶では、第7期生となる今年度の研修生11名を代表し、東北医科薬科大学病院の佐藤よしみさん（写真）が「患者さんやご家族が抱える心理的・社会的な悩みに寄り添い、エビデンスに基づく質の高い看護を提供できるスペシャリストを目指します。」と決意を述べました。



## ウェルカム2018が行われました

6月8日（金）、歯科医療センターにおいて、歯と口の健康週間にちなんだイベント「ウェルカム2018 ～のばそうよ 健康寿命 歯みがきで～」が行われました。

当日は、各診療科によるポスター展示、唾液測定によるストレスチェック、位相差顕微鏡の体験コーナー、歯科用CAD/CAM\*の体験コーナー、本学歯科技工部・医療専門学校歯科技工学科による石膏模型プレゼント、栄養部によるレシピ紹介などのコーナーが設けられ、一般市民の方々が歯と口の健康に関する知識を深める機会となりました。

\*コンピュータによる歯冠修復物や口腔インプラント等の設計・製作



## 大規模事故・災害等の発生時における協力要請申合せ調印式が行われました

6月8日（金）、本学歯学部は一般社団法人岩手県歯科医師会と大規模事故・災害等の発生時における連携活動について申合せました。

本申合せでは、より迅速で効果的な連携を図ることを目的とし、災害時の身元確認、避難所での治療や口腔ケアなどの歯科保健活動、災害時の連携強化のための合同訓練の実施など6項目が盛り込まれました。

祖父江学長は「この申合せを機に大規模事故や災害等の発生に備え、これまで以上に密に連携する体制を整えていきたい。」と抱負を語りました。



（左から：三浦副学長・歯学部長、祖父江学長、佐藤会長）

## ライオンズクラブ国際協会様から本学眼球銀行へ寄付金が贈呈されました

6月11日（月）、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナーである森谷潤様らが来学され、本学眼球銀行（岩手医大アイバンク）に167万5千円のご寄付をいただきました。

同協会からの寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。アイバンク総裁の祖父江学長は、「趣旨にそえるよう有効に活用させていただきたい」として、同協会へ感謝状を贈呈しました。



（左から：石川助教（眼科学講座）、祖父江学長、鈴木様、森谷様、村上様）

## 「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」に挑戦中の日本対がん協会 垣添 忠生 会長による対話カフェが行われました

6月11日（月）、本学附属病院西病棟3階がん患者・家族サロンにおいて、「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」に挑戦中の日本対がん協会の垣添会長（写真後列左から4人目）を特別ゲストに迎え、対話カフェが行われました。

「がんサバイバー」とはがんと治療中または経験した人のことで、垣添会長は全国のがん治療施設を行脚しながら、がんサバイバーへの支援を呼びかけています。平成30年2月5日に九州がんセンターを出発し、本学附属病院への訪問は30施設目でした。このあとは青森県立中央病院（青森市）などを経て、7月下旬にゴールとなる北海道がんセンター（札幌市）を訪問予定です。

ご自身も大腸がんと腎臓がんを患ったがんサバイバーである垣添会長は、「日本人の2人に1人はがんと診断され、年間100万人を超すがんになっている。それでも、がんと診断された方の中には孤独感や疎外感を感じ、孤立される方が多くいる。この取組みを通して、がん＝死のイメージを変え、がん患者を勇気づけたい。」と呼びかけました。



## シルバーリハビリテーション協会様から寄付金が贈呈されました

6月22日（金）、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会の田中由紀子理事長らが来学され、本法人に500万円の寄付金を贈呈されました。本学は青森県からの依頼を受け、青森県量子科学センターを活用した研究の検討を進めており、この寄付金はセンターでのPET研究のために活用されます。

小川理事長は「多額の寄付をいただきありがたい。PET研究の発展につながるように今後も努力していきたい」と感謝を述べました。



## 解剖体慰霊祭が行われました

6月23日（土）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、第81回解剖体慰霊祭が厳かに執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員・学生とご遺族が参列しました。

慰霊祭では104霊の御尊名奉読に続き、学生を代表して歯学部3年の金森尚城さんから「どの分野においてもその根底にあるものは解剖学であり、日々、解剖学実習で学んだことを思い出しながら学習に励んでいます。この解剖学実習で得ることのできた様々な経験を活かし、良き医療人になれるよう努力していきます。」と慰霊のことばが捧げられました。



## 感染対策講習会が行われました

6月25日（月）、岩手医科大学講堂において、本学附属病院医療安全管理部感染症対策室主催の感染対策講習会が行われました。講習会では、感染症対策コンサルタントの青木眞先生（写真）を講師に迎え、「感染症、最近の話題：抗菌薬適正使用・職業感染予防について」と題した講演が行われました。

参加者は、抗菌薬の適正な使用方法や医療従事者の感染リスクについて理解を深めました。





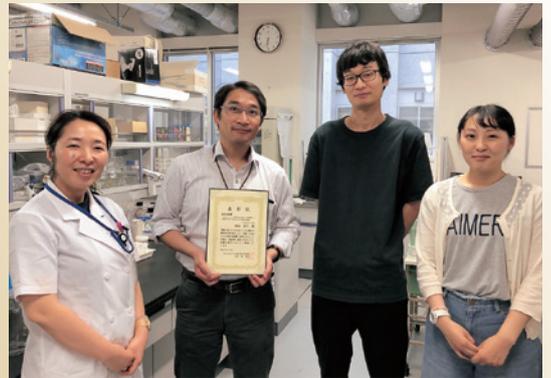
## 臨床薬学講座情報科学分野 西谷 直之 教授が 第22回日本がん分子標的治療学会学術集会で優秀演題賞を受賞しました

この度、平成30年5月16日から18日まで東京で開催された第22回日本がん分子標的治療学会学術集会で新規抗がん剤シードについて発表し、優秀演題賞を受賞しました。

上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子に変異の見つかるタイプの非小細胞肺癌には、ゲフィチニブなどのEGFRチロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) が用いられます。劇的な治療効果が見られる一方で、治療開始後1年程度で生じる耐性化が臨床上の問題となっています。

そこで、この度岩手医科大学、長崎大学、がん研究会の共同研究により、複数の耐性型EGFRに有効な新規の化学構造を有する抗がん剤シードを開発しました。本成果は、平成30年3月に、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて国際特許出願 (PCT: Patent Cooperation Treaty) を果たしました。

(文責：西谷 直之)



左から：佐京助教、西谷教授、古川さん (薬学部6年)、佐々木さん (薬学部6年)

## 生命科学研究技術支援センター 花坂 智人 主任技術員が医学生物学電子顕微鏡技術学会主催 第34回学術講演会で学会奨励賞を受賞しました

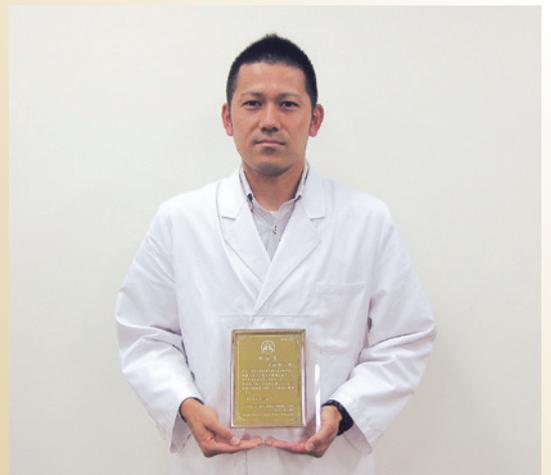
この度、医学生物学電子顕微鏡技術学会主催 第34回学術講演会 (平成30年5月17日から18日、衆議院第一会館 国際会議場、東京都千代田区) において学会奨励賞を受賞しました。

今までの電子顕微鏡観察では、細胞や組織の正確な三次元構造を把握することは困難でした。この課題を解決する新しい電顕技術として、走査電子顕微鏡 (SEM) の反射電子で連続超薄切片を観察する「連続切片SEM法」と、タンパクの局在と超微形態観察を同一切片で観察できる「Array Tomography法」を現実的な手技として確立したことが評価されました。

この受賞は、永年にわたり本センターに受け継がれてきた技術の賜物です。今後も電顕技術の職人として「匠の技」を絶やさぬよう研鑽に励みたいと思います。

最後に、これまでご指導して頂いた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：花坂 智人)



## 医学部5年生の相磯 愛聖さんが第69回日本東洋医学会学術総会で会頭賞を受賞しました

この度、医学部5年生の相磯愛聖さんが、第69回日本東洋医学会学術総会 (平成30年6月8日から10日、大阪) において、「学生による生薬カードゲームの開発と学生評価」を口頭発表し、会頭賞 (学生部門最優秀演題賞) を受賞しました。

今回の発表内容は、漢方処方の構成生薬の特徴を覚えられる「生薬カードゲーム」を考案し、北日本合同東洋医学研究会においてゲームに参加した学生のアンケート結果より、「生薬カードゲーム」の効果と改善点を検討したものです。今回考案した「生薬カードゲーム」は、学生でも簡便に視覚的に生薬を学べる利点があり、漢方処方の理解につながることを期待されます。

相磯愛聖さんは、5年前の本学東洋医学研究会の創設時の中心メンバーであり、これまで東洋医学研究会の活動を通じて他大学の東洋医学研究会とも積極的に交流してきました。今回の受賞を励みに、相磯愛聖さんのさらなる飛躍を期待しています。

(文責：本学東洋医学研究会 部長/薬科学講座天然物化学分野 准教授 林 宏明)



受賞時の相磯さん

医学部内科学講座血液腫瘍内科分野の石田高司教授は、名古屋市立大学大学院医学研究科の稲垣宏教授、坂本祐真（大学院生）、今村総合病院（鹿児島）の宇都宮與名誉院長兼臨床研究センター長らとの共同研究で、成人T細胞白血病（ATL）のCCR4に対する抗体治療薬であるモガムリズマブの治療効果を予測する遺伝子異常を明らかにしました。この成果は、難病であるATLに対する治療戦略を大きく変える可能性があります。

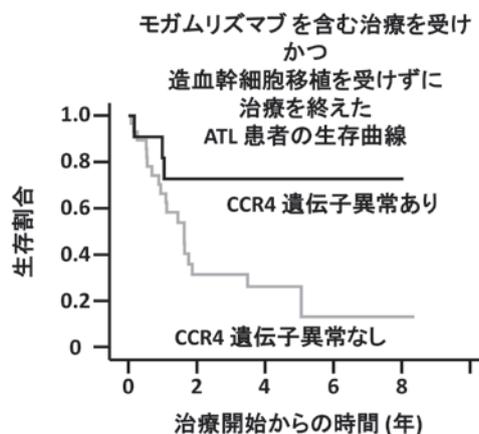
### ■ 本研究成果のポイント

多数のATL患者で白血病細胞を解析した結果、33%の患者にCCR4遺伝子変異（異常）を認めました。さらに、モガムリズマブを含む治療を受け、かつ造血幹細胞移植を受けずに治療を終えたATL患者を解析した結果、CCR4遺伝子異常を有する患者の治療開始5年後の生存率は73%、CCR4遺伝子異常を有さない患者では26%でした（図）。

これにより、

- i) CCR4遺伝子異常を有するATL患者は、CCR4遺伝子異常を有さないATL患者に比較し、モガムリズマブの治療反応性が極めて良好（5年生存率73% vs 26%）であること、
- ii) CCR4遺伝子異常を有するATL患者は、造血幹細胞移植治療（治療効果は高い反面副作用が強い）、を受けずとも、モガムリズマブ治療によって、長期間にわたり白血病を抑え込める可能性が高いこと、が明らかとなりました。

本研究成果は米国科学雑誌「Blood（ブラッド）」の電子版（2018年6月22日付日本時間）に掲載されました。



### 理事会報告（5月定例—5月28日開催）

1. 平成29年度事業報告について
2. 平成29年度決算及び監査報告について
3. 任期満了に伴う監事の選任について  
 監事 小野寺 勲（再任）  
 監事 池田 克典（再任）  
 （任期 平成30年8月1日から2年間）

4. 教員の人事について  
 医学部 内科学講座腎・高血圧内科分野 教授  
 旭 浩一（現 福島県立医科大学医学部生活習慣病・慢性腎臓病病態治療学講座 特任教授）  
 （発令年月日 割愛の状況による）
5. 6月期末勤勉手当等の支給について
6. 特定機能病院の承認要件見直しに伴う諸規程の整備について
7. 医療機器等選定に係る見積スキームについて

安保 淳一  
presents

ミナ ペルホネン mina perhonen の世界

皆川明氏が主催するファッションブランドであるミナ ペルホネンをご紹介します。

ミナ ペルホネンの原点は、今も昔も、テキスタイルにある。1995年、3着の服からスタートした最初のコレクション以来、「生地からのデザインから服を作っていくこと」を貫いているのがこのブランドだ。自然界にあるものを自由な感性でとらえ、手作業で図案に描く。その有機的な線と絵画的な世界観を形にするのは熱意と技術をもつ職人たち。織りや染めや刺繍などの手法でテキスタイルに昇華し、洋服として表現する。こんなものづくりをする人々は、世界に類を見ない。実直で純粋で愛にあふれた日本が誇るべきブランドなのだ (Casa BRUTUS ミナ ペルホネンと皆川明 2015年より引用)。

私はインテリアファブリックを通して「ミナ ペルホネン」を知りました。フィンランド語で「mina」はわたし(私)、「perhonen」はちょうちょ(蝶々)を意味します。現在のファッショントレンドの速さやファストファッションに疑問を抱きトレンドに左右されないシンプルなデザインの女性服を中心に展開しております。ウェアの他にインテリア製品や食器、雑貨などがあり、多くの「ミナ」ファンが存在します。デンマークのテキスタイルメーカーでフリッツハンセンなど多くの家具メーカーにファブリックを提供するクバドラ社 Kvadrat の生地で作られた座布団(タンバリン、写真1)を購入してからその魅力に惹かれました。タンバリンをモチーフに刺繍された生地は、これまでにない心地よさと安らぎを感じます。その後、椅子の布地を張り替えたり(写真2)、布の切れ端をパッチワークのようにつなぎ合せた手帳カバー(写真3)や、ファブリックを文字盤に貼った掛け時計、クッション(写真4)などで「ミナ ペルホネン」の世界を楽しんでおります。

現在、ミナ ペルホネンの直営店は東京、湘南、京都、松本、金沢に11店舗あるのみですが、昨年10月にミナ ペルホネンの出張店として材木町 光原社にて「mina perhonen ノマド展」が開催されました。県内はもとより近県からも多くの「ミナ」ファンが押し寄せ大盛況となりました。私も初日に駆けつけ在店されていた皆川氏からイラスト入りのサイン(写真5)をいただくことができ大変感激しました。来年、春にはまた光原社にて「mina perhonen ノマド展」の開催が予定されているそうです。ご興味ある方はミナ ペルホネンの世界をのぞいてみませんか。



写真1 タンバリン座布団



写真2 椅子の張り替え



写真3 左：市販品 右：自作  
ほぼ日手帳



写真4 刺繍クッション

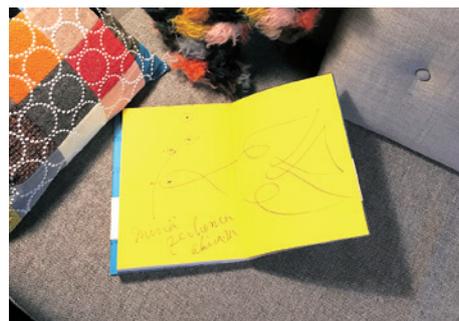


写真5 イラスト入りサイン

# シリーズ 職場めぐり

No.125

## 放射線腫瘍学科

放射線腫瘍学とは、放射線を用いて「がん」を治療する医学領域です。放射線を物理・化学・生物学的に制御することで、がんの局所療法を低侵襲に提供します。機能・臓器を温存した治療、手術・薬物との併用療法、苦痛症状の緩和など、がん診療の様々な場面で活用されています。

当院は、広大な岩手・北東北エリアの患者を対象に、高精度・特殊照射を実施するセンター病院であると共に、広域放射線治療ネットワークを介して更に専門的な粒子線治療施設等と連携するハブ機能も果たしています。現在、医師6人、医学物理士1人（一部、放射線医学講座在籍）体制ですが、毎年700名を超える新患患者に高精度治療を実現するには更なるパワーアップが必要です。多職種・多診療科との協力によるチーム医療が岩手医大の一番の特色であ

り、急速に進歩するがん医療と放射線治療を協調させることで、より良いがん治療の実現を目指しています。

（教授 有賀久哲）



## 矢巾キャンパス教務課

矢巾キャンパス教務課は、今年度から災害時地域医療支援教育センター事務室を加え、総勢30名の大所帯となりました。

当課は、医学部・歯学部・薬学部・看護学部ならびに大学院に係る教務事務に限らず、学部組織および全学教育推進機構（教養教育センターを含む）の管理運営、教学IR、災害時地域医療支援教育の他、対外的な地域貢献活動などの幅広い事務を担っております。

教育改革の推進、附属病院の移転、不安定な社会情勢など、本学を取り巻く環境が刻一刻と変化する中で、我々教務課員に求められる業務も高度化・専門化しておりますが、学生のキャリア形成を支援し、本学の特徴である組織の垣根のない教育研究を推進するため、教職

協働のもと、縦横の連携を常に意識して業務に取り組んでまいります。

（課長 佐々木 寛人）



## 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美  
影山 雄太 菊池 初子  
松政 正俊 工藤 正樹  
齋野 朝幸 熊谷 佑子  
藤本 康之 安保 淳一  
白石 博久 佐々木忠司  
成田 欣弥 畠山 正充  
遊田由希子 藤村 尚子  
佐藤 仁 武藤千恵子  
小坂 未来 高橋 慶  
藤澤 美穂

## 編集後記

西日本を中心とした豪雨の被害は非常に大きく、災害の恐ろしさを感じます。同時に防災意識を高く持つことや日頃の備えの大切さも痛感しました。トピックスにごさいます大規模事故・災害等発生時の協力要請申合わせを平時から締結しておくことは、非常時においても住民の方に速やかに医療ケアを提供でき、安心していただくことにつながるのだと思いました。

特集は矢巾新病院の周辺施設についてです。周辺施設の充実は「患者さんにやさしい病院」のコンセプトにつながることでしょう。完成が楽しみです。

（編集委員 藤澤 美穂）

## 岩手医科大学報 第502号

発行年月日 平成30年7月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111（内線7023）

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

# スポット薬学講座

臨床薬学講座臨床薬剤学分野 教授 工藤 賢三



## とろみ調製用食品の功罪 ～とろみ調製用食品を使ったお薬の服用には要注意～

とろみ調整用食品（とろみ剤）をご存じですか？とろみ剤は、食べ物や飲み物に加えて混ぜることにより、適度なとろみを手軽に付けることができ、飲食物などを飲み込みしやすくする食品のことです。加齢や疾患などが原因で、飲食物を飲み込む力が弱くなったり、飲み込む神経の働きが悪くなったりすると、飲食物を摂取する際に上手に飲み込めずに、むせることや誤嚥を起こすことがあります。特に、高齢者の場合、誤嚥性肺炎を起こしても自覚症状がわかりづらく発見が遅れ、結果として重症化する割合の多いことが知られています。医療や介護の現場では、この怖い誤嚥を防ぐために、食事の姿勢に気を付けたり、調理の工夫や飲食物にとろみを付けて飲み込みを助けるための工夫を行っています。とろみ剤は、飲食物に加えることで簡単にとろみが付けられるため食事の際に利用されています。

食事をした後には、お薬を服用することも多いと思います。本来、お薬は水かぬるま湯で服用することになっていますが、嚥下の問題から、とろみを付けた水に混ぜてお薬を服用している場合もあるようです。最近、このとろみ剤を使用して錠剤を服用した患者の便中に未崩壊の錠剤が観察されたことが報告され、とろみ剤が錠剤の崩壊に影響することが示唆されました。崩壊とは、錠剤などの内用固形製剤を経口投与したときに、消化管内において製剤に水（液体）が浸入し、形が崩れることをいいます。その後、崩壊した製剤が多数の小さな粒子になる分散や

その粒子から薬が溶け出る溶出の過程を経て薬が体内に吸収されていきます。崩壊は、内用固形製剤の効果を発揮するための大切な最初のステップになります。

当講座では、富田隆准教授を中心として、介護施設等でのとろみ剤の使用実態や内用固形製剤へのとろみ剤の影響の薬剤学的、薬物動態学的な研究を行っています。その結果、とろみ剤は速崩壊性錠剤の崩壊に影響すること、実際に速崩壊性錠剤からの薬の溶出やその効果に影響することが徐々に明らかとなってきました。現在、岩手大学農学部や企業との共同により崩壊抑制機序の解明を行うと共に、お薬の服用にも安心して使用できるとろみ剤の開発を目指して研究を行っているところです。

皆さんの周りで、とろみ剤を使ってお薬の内服をしている方がおられれば注意をして頂けると有り難く存じます。また、ご質問等があれば、当講座に遠慮なくお問い合わせ下さい。

とろみを付けた水に浸漬せず、水を滴下

崩壊する



とろみを付けた水に浸漬した後、水を滴下

崩壊しない



とろみ剤による錠剤の崩壊の違いの例